

主題：「神の宮である召会（神の永遠のエコノミーの目標）」
の内在的な意義

メッセージ 16

神の宮としてのキリストの奥義的なからだを建造するために、死を命に変える

聖書：ヨハネ 2:1-22

- I. わたしたちの内側の主は、魂の荒野における幕屋の召会生活から、キリスト、すべてを含む霊を、わたしたちの霊の中の良き地の実際とする宮の召会生活に前進することを、切望しています——ヘブル 6:1 前半、ヨシュア 3:14-17、申 8:7-8、エペソ 2:21-22、コロサイ 1:12、2:6-7、ローマ 1:9、8:16：
- A. 幕屋は地上における神の召会、各地における彼の召会を予表しますが、宮はキリストのからだの実際としての召会を表徴します。諸地方召会は尊い手続きであり、わたしたちを神のエコノミーの栄光ある目標としてのからだの実際にもたらしめます——エペソ 1:22-23、参照、啓 21:10-11。
- B. キリストのからだの実際の証しは、神の最終の回復です。すなわち、キリストがわたしたちのすべてであり、キリストのからだの一の実際を伴い、彼のからだのすべての肢体が機能します——エペソ 1:17、3:16-4:6, 16。
- II. 神の宮としての召会を建造する神の思想と道は、わたしたちのものより高いのです。わたしたちは自分の思想と道を捨て、エホバ、わたしたちの神に戻って、彼の言葉を食べ、彼の言葉の中の水を飲み、満たされ、強化され、更新され、聖別され、造り変えられ、彼のかたちに同形化されて、キリストのからだを建造する必要があります——イザヤ 55:1-11、57:20 とフットノート 1、ヨハネ 2:19、3:34、6:63、17:17、エペソ 5:26、II コリント 3:16-18、ローマ 8:28-29。
- III. ヨハネによる福音書は、キリストが神の建造のためにわたしたちの命であること、死を命に変えること（命の原則）が、神の宮としてのキリストの奥義的なからだを建造するためであること（命の目的）であることを、啓示しています——2:1-22：
- A. ヨハネはしるしの書であり、しるしは霊的意義を伴う象徴であって、命の事柄を表徴するのに用いられます——11 節、20:30-31：
1. 水をぶどう酒に変えることも、主の壊された体を起こすことも、しるしです——2:1-11、マタイ 12:38-42、参照、ヨハネ 2:18-19、ホセア 6:1-3。
 2. 死を命に変えることは、わたしたちが彼の宮としての召会を建造するために、復活としての彼を経験する原則、方法、道です。
 3. 真のヨナとしてのキリストは三日間、地の中心に葬られ、復活させられました。それは、わたしたちが彼と一になって、はどのように出て行き、平和の福音を宣べ伝えることができるためです——ヨナ 1:1、マタイ 12:38-41、エペソ 2:17。
 4. 真のソロモンとしてのキリストは、わたしたちの霊の中の復活の実際としての命を与える霊と成り、神の宮としての召会を建造しました。それは、彼の肢体たちを通して預言し、知恵の言葉を語ることによってであり、彼のからだとしての召

会を建造するためです——マタイ 12:42. 列王上 10:23-24. マタイ 16:18. エペソ 4:16. I コリント 8:1-3. 12:7-8. 14:4 後半, 12, 31。

IV. 主が三日目にガリラヤのカナにおける婚宴に来たという事実は、彼が復活の中でわたしたちに来ることを示します——ヨハネ 2:1-11. 3:3, 5-6. 4:10, 14. 11:25, 41-44. 参照、列王下 2:19-22 :

A. 葦の地としてのカナは、主が弱くてもろい人々に満ちた世に来ることを表徴します——ヨハネ 2:1. イザヤ 42:3. マタイ 12:20. 11:7。

B. 結婚は人の命の継続を表徴し、婚宴は人生の享受を表徴します。毎日が結婚であり、人生が婚宴であると言うのは、わたしたちが自分に良い事が起こるのを望み、あるいは期待することを意味します。

C. カナにおける婚宴の途中、「ぶどう酒が尽きた」のです——ヨハネ 2:3 :

1. ぶどう酒、ぶどうの命の液は、命を象徴します。ぶどう酒が尽きるとは、わたしたちの人の命とその享受（例えば、健康、金銭、財産、天然の関係など）が常に尽きることを表徴します。

2. 復活の命としての主イエスは、決して尽きることがありません——英文詩歌 523 番, 4 節。

D. 主イエスは人々に、六つの石の水がめに水を満たすように告げ、彼らはそれを縁まで満たしました——ヨハネ 2:6-7 :

1. 六つの水がめは、創造された人を表徴します。人は六日目に神によって創造されました(創 1:26-27, 31)。ここの水は死を表徴します(2, 6 節. 出 14:21. マタイ 3:16)。

2. 水をぶどう酒に変えること、死を命に変えることは、造り変えです。クリスチャン生活は、性格を変える生活や振る舞いを改善する生活ではなく、わたしたちの死を命に変える事柄です——ヨハネ 2:8-11。

3. 新しいぶどう酒が前のぶどう酒より良いことを、祝宴の長が発見したように(9-10 節)、わたしたちも、再生を通して受けた命が、わたしたちの天然の命よりはるかに良いことを見いだすでしょう。

V. 命の目的のための命の原則は、わたしたちの内側で成長する神の種としての、十字架につけられ復活したキリストを経験することを通して遂行されます。これは、良き地と六つの庇護の町の地理的な位置に見ることができます—— 19 節. I ヨハネ 3:9. 民 34:12. 35:6, 15-16, 25 :

A. 良き地の最上の部分は、二つの海（地中海と死海）と川（ヨルダン川）によって囲まれています。これは、復活し昇天したキリスト（高くされ、引き上げられた地）が、彼の死の範囲、領域にいなければならないことを示します—— 34:12. ヨハネ 12:24-26. ペリピ 3:7-11. コロサイ 3:1-4。

B. 庇護の町は、贖う神の具体化としてのすべてを含むキリストを予表し、過ちを犯した罪人は、庇護のために彼の中に逃げ込むことができます——民 35:6 :

1. 庇護の町は、誤って人を殺した者のために設けられました(15-25 節)。どの罪人でも悔い改めるなら、神は彼を、過ちを犯した罪人と見なし、彼の庇護としてのキリストの中に逃れ、彼の赦しを受けることができるようにします——ルカ 24:47. I コリント 2:8. I ヨハネ 1:7, 9。

2. 六つの庇護の町が、ヨルダン川の両側に三つずつありました。六という数は、六日目に創造された、過ちを犯した人を表徴します——創 1:26-31。
3. 三という数は、過ちを犯した人の庇護としての三一の神を表徴します。二という数は（二組の三つずつの町）は、三一の神が地上で人の間に生きて、彼らの庇護の町であるという、宇宙に立っている証しを表徴します——民 35:13-14。
4. 庇護の町はイスラエルの子たちのためだけでなく、彼らの間の他国人や寄留者のためでもありました。これは、過ちを犯した人の庇護としての三一の神が、全人類のためであることを表徴します。さらに、六つの庇護の町がさまざまな場所に分散していることは、三一の神の具体化であるキリストが、近くて便利であることを示します。彼は人々の間に、わたしたちがいる所に広がって、過ちを犯すすべての者の庇護の町となります—— 15 節. 詩 2:12. 16:1-3. 17:7-8. 18:1-2. 36:7-8. 57:1. 91:1-2. 143:8-10. イザヤ 32:1-2。

VI. 命の目的は、主の言葉において宣言されました。「この宮を壊しなさい。そうすれば、わたしは三日のうちにそれを起こす」——ヨハネ 2:19 :

- A. 主の死と、十字架上で彼の物質の体を壊すことを通して、主はわたしたちの違反と罪科を担い、わたしたちを贖い、義としました。そして、彼の死はわたしたちの病のいやしのためでした——イザヤ 53:4-6. ローマ 3:23-26. I ペテロ 2:24。
- B. 主の物質の体の破壊は、死の権能を持つ悪魔の破壊でもありました。彼が十字架上で死んだとき、旧創造、古い人、肉、サタン、罪の性質、罪の行為、この世が十字架につけられました。こうして、神の目に、キリストの十字架の後、全宇宙は一掃されました——ヘブル 2:14. ローマ 6:6. ガラテヤ 2:20. 5:24. ヨハネ 1:29. 3:14. 6:70-71. 12:31. マタイ 16:23. I コリント 15:3。
- C. 主の物質の体の破壊と彼が三日目に起こされたことは、彼が一粒の麦として死んで復活し、神の神聖な火としての神の神聖な命を解き放って、彼の多くの信者たちの中へと分与し、彼の多くの信者たちを神の複製にすることでした——ヨハネ 12:24. ルカ 12:49-51。
- D. キリストの死と復活を通して、彼の物質の体は増し加わって、神の宮、神の家としての召会である彼の団体の奥義的なからだとなりました—— I コリント 3:16-17. I テモテ 3:15. I ペテロ 2:5. エペソ 2:21-22。
- E. 多くの住まいは神の宮である、キリストのからだの多くの肢体たちです——ヨハネ 14:2, 23. ローマ 12:5. I コリント 3:16-17。
- F. キリストの命を解き放つ死によって生み出された多くの麦粒として、またキリストの命を分与する復活によって生み出された多くの住まいとして、わたしたちは土の器の中の宝の力により、復活の命の現れのために十字架につけられた命を生きることによって、彼を極みまで愛する者とならなければなりません——ヨハネ 14:21, 23. ローマ 8:28-29. II コリント 4:7-18. 12:7-9。

VII. 主が十字架上で語った七つの言葉は、彼の血を流すことによる彼の死が、わたしたちの法理的な贖いのためであること、彼の命を解き放つための彼の死が、わたしたちの有機的な救いのためであることを啓示します——ヨハネ 19:34. 12:24 :

- A. 「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分が何をしているのか、わからないので

すから」——ルカ 23:34。

B. 「まことに、わたしはあなたに言う。今日あなたは、わたしと一緒にパラダイスにいる」——43 節。

C. 「女よ、見なさい、あなたの息子です……見なさい、あなたの母です」——ヨハネ 19:26-27。

D. 「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか？」——マタイ 27:46。

E. 「わたしは渇く」——ヨハネ 19:28。

F. 「完了した」——30 節。

G. 「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます」——ルカ 23:46。

VIII. 十字架上の主の死は彼の贖いの働きを終えましたが、彼はなおもわたしたちの内側で、わたしたちを通して働いて、彼の有機的な救いを完成しつつあります。彼はわたしたちのすべての死を命に変え、わたしたちを建造して神の宮とし、彼の永遠のエコノミーの傑作また目標としての一人の新しい人にしています——ヨハネ 5:17. I コリント 15:58. 16:10. ローマ 5:10. エペソ 2:10, 15。